

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 熊本市 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	熊本市立長嶺中学校 全校生徒 960名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラリンピアンを講師に招き、パラリンピアの生き方に学び、共生社会の実現を促進する生徒の育成を図るとともに、オリンピック・パラリンピック及びスポーツへの関心を高める。
5 取組内容	<p>1 事前の取り組み (道徳・1 時間)</p> <p>(1) 車いすアスリート副島正純さんの生き方に学び オリンピック・パラリンピック・ムーブメントについて知る。 「夢に向かって 車いすアスリートの挑戦」を見る。 副島さんの生き方から学んだことをまとめる。</p> <p>2 パラリンピック教育講演会</p> <p>(1) 講師紹介 パラリンピアン・車いすマラソン選手 花岡 伸和 氏</p> <p>(2) 教育講演会 演題「パラトーク」</p> <p>(3) 車いす体験 希望者による車いすレースを行った後、花岡さんと対話しながら、感想を述べた。</p>



笑顔で話される花岡伸和さん



多くの生徒の印象に残った言葉



車いす体験

	<p>(4) お礼の言葉 車いすで生活をしている生徒が生徒を代表して、お礼の言葉を述べた。</p> <p>(5) アンケート、感想記入</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 事前に、オリンピック、パラリンピックの文化的意義や価値を学習して、講演に臨んだため、より深い学びにつなげることができた。</p> <p>(2) 講演を聞いて、元気や勇気をもったり、自分の夢や目標につなげたりすることができた。インクルーシブな社会の実現に向けて考えを深めることができた。</p> <p>(3) 車いすを使用している生徒が、「どんな小さなことでもいくつも積み重ねていくことで、自分の夢を実現できる」という感想を述べ、元気を得ることができた。</p> <div data-bbox="970 521 1366 779" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">生徒代表お礼の言葉</p> <p>(4) オリンピック、パラリンピックへの興味、関心が高まった。</p> <p>生徒の感想</p> <p>○花岡さんの生き方はすごくカッコいいと思いました。笑顔ですっと話されていて、こっちも笑顔で楽しく話を聞くことができました。私も真似したいなと思いました。ロンドン行きで作戦が成功して優勝！ 本当にかっこいいと思いました。これからもコーチとしてたくさんの人を勝利に導いてほしいなあとと思いました。</p> <p>○私はクラスで1人であることが多くさびしい思いをしています。花岡さんの話は、まるで自分に話されているかのようにとても元気をもらいました。花岡さんの話を聞いて「前向きにならないとなにも始まらない」ということを学びました。とても気持ちが楽になり、不安が飛んでいきました。元気と勇気をもることができました。これから笑顔で話したりするなど、自分のコミュニケーションを見直して、友達をたくさん作ってみたいです。</p> <p>○障がい者は、「不幸でなく不便なのだ」と聞き、「確かにな」と思いました。私の祖父は両目が見えなくて、誰かの肩をつかまないと歩けません。街中で祖父と歩いていると、周りからじろじろ見られます。でも私は恥ずかしくはありません。体の一部がなくても一生懸命に生きている人はすごいと思うからです。だからこれからも祖父と一緒に堂々と歩こうと思いました。</p> <p>○けがをしたことによって「五体満足」から「人生満足」に変わるということは、とてもすごいことだと思いました。講演を聞く前と後では、パラリンピックに対する考え方が変わりました。2020年の東京オリンピック、パラリンピックを全力で応援したいです。</p>

7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>本校には車いすを使用している生徒、障がいをもった家族がいる生徒が在籍している。その生徒たちの元気が出るように、周りの生徒たちも共生社会の実現のための理解が深まるように、パラリンピアの講演を依頼した。</p> <p>事前の取り組みで、「車いすアスリート副島正純さんの生き方に学ぶ」の授業を行ったことで、オリンピック・パラリンピックムーブメントやパラリンピックに対する基礎知識を得ており、講演内容の理解が深まった。</p>
8主な課題等	<p>本校は生徒数が多いため、体験的な学習が十分できなかった。</p> <p>「I'm POSSIBLE」を使った授業実践を行うには、年間計画に位置付けて行う必要があり、難しい状況である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>来年度もぜひ講演会を実施したい。</p>